

# 第7回糸島市中小企業振興審議会 会議録

【日時】令和4年3月29日（火）9：30～11：50

【場所】糸島市役所 1号会議室

【出席者】委員：村上会長 福島副会長 大館委員 中原委員 吉田委員 小津委員  
藤野委員 丸田委員 尾崎委員 大城委員 安武委員  
事務局：大神部長 松本課長 上田主任 甲斐主事  
オブザーバー：大原課長 富永課長補佐（商工会）

【欠席者】委員：徳重委員

【内容】

1. 会長あいさつ

2. 議事

「創業」について グループディスカッション

A班：福島副会長 大館委員 中原委員 大城委員 安武委員

B班：小津委員 吉田委員 藤野委員 丸田委員 尾崎委員

C班：松本課長 上田主任 甲斐主事 大原課長 富永課長補佐

会長	中小企業振興審議会（以下、審議会という）のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料「中小企業振興審議会のスケジュール（案）」に沿って、事務局より説明。
会長	<p>事務局からの説明のとおり、公募するテーマの事業化は早くても令和6年度からということ。そこで、審議会として、独自の事業化案を提案していかないと、それまで予算が何もつかないということになる。第6回の審議会の議事録を確認したところ、委員の皆さんが共通して課題として認識していたのが情報発信に関する内容だった。そこで、会議録の内容を踏まえ、審議会として事務局に提案したい内容を別紙のとおりまとめた。（会長作成資料を配布）</p> <p>会議録の委員の皆さんの発言を整理すると、次のような意見があった。中小企業振興に関わるような情報の一元発信をすべき、それから情報が分かりやすい内容で提供される必要もある。WEBのプラットフォームの構築も必要であろう。また中小企業振興の条例なり、実施計画の普及活動も率先して活動しなければいけない。例えば追加で入れたのがツイッターの使い方もあるかなということ、SNSの活用をどのように考えるか、ということもしないといけない。中小零細企業がデジタル化の波についていけてないのではないかと指摘もあった。したがって勉強会や講習会などの必要性もあるかなというところ。最後はオンラインミーティングの環境を整備して、コロナのような感染症に関わらず、色んな事が出来るような場を整えることも必要であろうと考えた。情報発信の整理あるいは情報機器の利用の促進等を中心に予算措置をしていただければ、提案をするときも色んな形でやり易くなるのでは</p>

	<p>ないかということ。議事録の内容からするとICTの活用が非常に重要であるという指摘にも通じているのでそういう形で進めさせてもらえれば良いかなと考える。委員の皆様には、事務局から提案されたスケジュール案と、前回の会議録を踏まえた審議会としての事業化案について、チームで3分程度話していただきたい。</p>
	<p>【グループ討議】</p>
村上市長	<p>A班とB班は意見を発表してください。</p>
【A班】 副会長	<p>A班では、三つの事を話し合った。一つ目は、予算が伴う事業は、市のスケジュール通り令和5年度の実施になるのは致し方ないので、令和4年度は、事業案をしっかりと検討していこうということ。</p> <p>二つ目は、令和5年度まで、事業を検討するだけで実行できないのは、如何なものかという意見が出た。そもそも、市民や議員に中小企業振興基本計画の取り組みが浸透していない。広報いとしまによる周知など予算をかけずにできることを検討する必要がある。</p> <p>三つ目は、既に市内で中小企業振興をしている方が沢山いるということ。</p> <p>既存の取り組みを活かし、予算をかけずに、理解促進、認知拡大に取り組めると良い。中小企業振興を実践している方の紹介などを行い、いかに中小企業振興が大切であるか伝え、機運を高めていきたい。</p>
【B班】 委員	<p>B班の意見は三つある。一つ目は、情報の一元化が必要ということ。ここを見れば大体の情報が網羅されているというような情報発信の場所が必要である。</p> <p>二つ目は、同友会と商工会が実施したアンケートの結果には、市の現状が出ていないのではないかとということ。個人事業主に絞ったアンケートや雇用が無い事業者向けのアンケートなど経営状況に合ったアンケートを実施し、本当の課題を把握する必要がある。</p> <p>三つ目は、情報発信しても、結局は経営者が情報を収集する姿勢がないと伝わらないということ。経営者が情報収集するようにモチベーションを上げる仕組み作りが必要。</p>
会長	<p>アンケートについては、同友会や商工会がヒアリングを実施し、実態を把握するという方法であれば、すぐに取り組めると思う。</p>
会長	<p>各チームの意見を整理すると、予算を伴う事業については、スケジュール通りにやることで致し方ないという意見があった。また中小企業振興基本計画の取り組みが浸透していないので、計画の認知を広めていくという活動をしないといけないという意見もあった。条例や計画が普及しないと、経営者のモチベーションも上がらず、いざ公募を開始したとしても、事業案が提案されないという事態になる可能性もある。そこで、まずは条例や計画の普及活動に注力することが必要であるということ。他には、アンケートを実施するという意見もあった。アンケートの実施には予算が伴うが、同友会や商工会等へのヒアリングを実施して実態の把握をするというようなことであれば、すぐにでも実施できるのではないかと考えている。本日の審議会で出た意見を基に、次回の審議会で、最終的な事業化案を決める。例えば、個人的には、</p>

	<p>委員の中から広報委員会の部署を作り、常時配信出来るような体制を作るのはどうかと想っていた。情報発信に関しては、実動するとき、市にすべて任せるのではなく、委員が内容を作成する必要があると考えている。委員の皆さんも、このような提案でも良いので、次回の審議会までに審議会が事務局に提案する事業化案について考えておいてほしい。</p>
会長	<p>これから、グループディスカッションをしていただくが、今回のテーマは創業と人材だが、まずは創業に的を当てて議論をしていただきたいと思う。その前に、事業化案を公募するにあたり、どの事業領域の公募テーマにするかということを考えてほしい。(別紙 写真1参照)</p> <p>事業領域では、「技術的リスク」と「顧客・市場リスク」を考えてほしい。</p> <p>「技術的リスク」については、技術的なリスクが高いとお金がかかる案件となる。</p> <p>「顧客・市場リスク」とは、ユーザーや市場が存在するか、需要があるかということである。リスクが低いほど、市場は存在する。</p> <p>領域Ⅲのようなリスクが低く、需要がある分野で創業してもらい、成功体験を積んでもらう。そこから少しずつリスクの高い方へ移動していくような公募テーマに変えていく。あるいはそこで成功すれば、技術的なリスクが高いものについても対応するような公募テーマを設定する。そういった大きな流れをイメージしていただきたい。いきなり難しい課題を公募テーマにしても、事業案は出てこないし予算措置も大きなものになる。必ずしもこの領域に沿って議論してくださいという訳ではない。このような見方もあるので参考にしてほしい。</p> <p>これから、「創業」について、25分程度、グループディスカッションをしていただく。テーマは、「なぜ糸島に創業が必要なのか」とする。</p>
	<p>【グループ討議】</p>
会長	<p>班ごとに意見を発表していただきたい。</p>
【B班】 委員	<p>(別紙 写真3参照)</p> <p>B班では、糸島に創業が必要な理由として、「地域の雇用の確保」、「20代の流出を防ぐ」、「働きやすい場所」、「税収のアップ」という意見が出た。</p> <p>次に、どのような創業があれば良いかを考え、糸島の資源を守ってほしいという意見が出た。豊かな農産物、漁業、林業など糸島の魅力を発信していくような創業を望む。</p> <p>また、今までに無い新しい市場を作っていく創業の在り方を望みたいと考えた。</p>
【C班】 事務局	<p>(別紙 写真4参照)</p> <p>C班では、糸島に創業が必要な理由が複数出て、大きくまとめると「魅力ある街にするため」に創業が必要と考えた。糸島には、自然環境や美味しい食材など沢山の地域資源があり、そういったものを使って創業をしてもらうことが、地域産業の振興に繋がると思う。他には、「雇用創出」という側面からも、働く場があると、定住にも繋がりと、人口も増加するので、創業が必要と考えた。</p>

【A班】 副会長	<p>(別紙 写真2参照)</p> <p>A班では、糸島に創業が必要な理由として、三つの意見が出た。</p> <p>一つ目は、「糸島を強くする」ということ。ビジネスとは課題解決であると思う。創業が増えれば、課題解決が進むということである。また、創業が増えると、既存企業とのコラボレーションが生まれる。課題となっている事業承継においても、受け皿が増えることになる。雇用も創出される。ユニークな企業が多いと優秀な人材が定着する。</p> <p>二つ目は、「糸島を魅力的な街にする」ということ。創業が増えることにより、糸島は創業しやすい場所という魅力になる。また、企業に多様性出ると、働くことの楽しさを次世代の子どもに見せられるという魅力になる。</p> <p>三つ目は、「糸島の良さに気づく」ということ。創業するとき、その土地の魅力、強みを活かした事業を検討することもあると思うので、創業をきっかけに、糸島の良さに気づける。また、Uターンが増加しており、外にいて改めて糸島の魅力に気づき、創業ができれば、更に魅力的な街になっていくと思う。</p>
会長	<p>各班の意見を整理すると、課題は大きく三つある。「地域企業の活性化」「市民生活向上」「魅力の発見と発信」だ。</p> <p>次のグループディスカッションは、「どのような事業化案の公募テーマにすると、先述の課題が少しでも改善するか」について話し合ってもらいたい。</p>
	【グループ討議】
会長	班ごとに意見を発表してください。
【B班】 委員	<p>(別紙 写真7参照)</p> <p>B班では、創業の入り口と創業後のサポートについて考えた。</p> <p>創業希望者のうち、いきなり銀行に行く人は創業を熟考した人だけである。創業を思い描いているくらいの方は、銀行の前の段階である商工会ですら、相談しづらい。立場がある人に、想像の創業の話をする、難色を示されるかもしれないと思い、言えない人が多いと思う。そういった創業の気持ちが発露されていないと感じた。まずは、妄想が語れる場が必要。“もっとこういう事があったら良いのに”、“私はこういうことがやりたい”、“今あるこういうものをこう変えたらどうかな”というような、創業希望者が集まり、安心して自由に想いを言葉にし、人に伝えられる場を作るという意見が出た。</p> <p>また、話して終わりではなく、創業のマインドや創業するために必要なことを教えてくれる創業塾や先輩創業者に会えるような場があると良い。創業塾の参加者で「糸島ビジネスプランコンテスト」を実施し、上位の方には、補助金や助成金等の特典を設け、創業を容易にできたら良いと思う。</p> <p>創業後のサポートについて、対象者を細分化し、同業種の先輩創業者にメンターとして、困った事があれば相談できる体制があると良い。事業を継承していくノウハウが学べたり、仲間作りできる仕組みがあると良い。困りごとを相談できるリストや、技術者を紹介できるようなマッチングアプリなどがあれば良いという意見が出た。</p>

会長	<p>B班の発表内容は、次回の審議会以降の話になると思われる。審議会の進め方について、委員が具体的な事業案を持ち寄って議論するわけではない。委員は、公募する事業化案のテーマを決定する。そのあと、漠然としたテーマについて応募があった明確な実行案を委員で選定する。採用されたら予算をつけて実施することになる。実施するにも、経験が無いので、プロセス管理をするような方々を支援していくというような流れを考えている。</p>
【A班】 委員	<p>(別紙 写真6参照)</p> <p>A班は、創業の公募テーマに対して、創業者がアイデアを提案してもらうという形態をベースに考えた。</p> <p>「地域企業の活性化」については、糸島の新しい市場や資源を活用した事業展開というテーマを考えた。特に農業、水産業、観光業を活用した事業、糸島と海外をつなぐ新規事業などのアイデアが出た。</p> <p>「市民生活向上」については、教育、高齢者が住みやすいこと、インフラ等の交通面を絡めた事業という案が出た。</p> <p>「魅力の発見と発信」については、糸島の魅力を地域外に発信していくような事業、糸島の歴史やアートなどの文化的な部分を発信していくようなテーマが出た。</p>
会長	<p>3つのテーマに則してどういうことができるのか提案をしていただいた。今の話の中には4番目に教育的な要素も入れて考えてみるのはどうかという内容も入ってきている。では最後のチームどうぞ。</p>
【C班】 事務局	<p>(別紙 写真8参照)</p> <p>C班では、「地域企業の活性化」については、子育ての支援、安全な街（防犯ビジネス）、経営者の高齢化に伴う若い経営者との交流チャンス、農業・商業・観光業の交流と人材のマッチング、産業間で連携できるような資源の情報発信などの意見が出た。人材確保については、農業、漁業には繁忙期があるので、人材をまたぐマッチングも必要と考える。子育て世帯に関しても、保育園に預けている時間に働けるようなマッチングができれば良い。そういった産業間での人材確保の取り組みが提案できないか考えた。</p> <p>「市民生活向上」については、公共交通の充実、キャッシュレスの推進、安価な移動手段、宅配サービス、市民の要望を集約したビジネスの提案などの意見が出た。</p> <p>「魅力の発見と発信」については、事業者のポータルサイトが必要ではないかと考えた。加えて、発信する側と受け手側のデジタル支援も必要である。デジタル化については、店舗の混雑状況の可視化、レンタサイクルの予約システムなど観光客に糸島の魅力がより効率よく見えるような取り組みをテーマにするという意見が出た。</p>
会長	<p>具体性のあるテーマの内容がでた。振り返っていきたいが、どういふサポートをしていけばよいかで議論が出来ればと思っていた。最初のチームが発表したように、こんな事業化案の提案があればいいなど、事業化案にある程度、検討をつけておいてから公募テーマを設定した方が、提案する側も手を挙げやすいのではないかと。それについても最初のチームが言ってくれたように、いずれ事業化案の種まで自分たちが考</p>

えて、それを事業化する仕組みが出来たら理想。そのようにもっていくために、これからどのような形をとっていくのか、一つの方向性を提供していただいたのかなと思う。

それと各チームでアプリの話が出ている。これから生活していく上で必ずアプリを使う流れが出てくるので、簡単に開発が出来る仕組みがあれば非常にやり易くなるのではないかと。糸島にそれをサポートする体制があれば、より魅力を向上されることにつながる。それを公募テーマとして提案を募集するのか、市の施策としてICT推進の大きな流れの一つとして考えるのか、議論していく必要がある。

2つのチームからは、なぜ糸島で創業が必要なのかというところから課題設定をし、課題を実行するためにはどう対処すればよいのかというテーマ探しをしていた。地域資源をいかにうまく活用すべきかという意見があったが、そもそも糸島の魅力的な地域資源とはなんなのか、そこから考えなくてはいけない。糸島の場合は、農水産物が非常に強いのでそういうものをベースにした新しい売り方を含めて考えていかなくてはならない。場合によっては教育的な要素も入れて、自然環境の良さを利用しながらやっていく必要もある。

委員の皆さんには、さらにこういうことも考えられるよねといったものを次回の委員会までにいくつか考えていただき、場合によっては事務局に連絡をしていただきたい。委員の皆さんからの個別の意見なども補充した上で、次回の審議会でリスト化し、提示させていただきます。その中から優先順位を皆さんにつけていただき、公募テーマを決めていきたい。今回色々考えて思ったのだが、創業してもらうのは良いけど、失敗した形になってしまうと弾みが見つからないので、大きな仕掛けではなく小さな仕掛けながらも最低限の収益が生まれ、継続して運営が出来るようなかたちになればよい。そのためには、最初に説明した事業領域の領域Ⅲのような事業を、生活の課題の中から見つけていくところからスタートになる。領域Ⅲのような事業は、創業だけでなく、既存企業も進出してくる可能性もある。そういった既存企業も含め、糸島にいくと成功するね、というような看板を上げられるように手順を踏みながら進めていけたらとイメージを持っていた。

次回の審議会では、本日の発表を事務局でまとめ、委員にフィードバックしたいと思う。

次回の審議会でも、可能であれば、1時間程度「人材」についてもグループディスカッションをしたいと思っている。

■閉会